令和元年度
第2回松江市上下水道事業
経営計画推進委員会

議 事 内 容
(概 要)

令和元年度第2回松江市上下水道事業経営計画推進委員会

1. 日時：令和元年12月21日（土） 13：45～16：00

2. 場所：松江市上下水道局 忌部浄水場 研修室

3. 出席者

(1) 出席委員 水谷文俊委員長、磯部美津子副委員長、宮脇和秀副委員長
安部寿鶴子委員、伊原由紀子委員、前田幸二委員、
伊藤京子委員、宇野和男委員、玉野井晃委員

(2) 事務局 川原良一上下水道局長、西村昌志業務部長、古藤智工務部長、
林真樹業務部次長、吉岡秀樹工務部次長、中倉隆工務部次長
立脇律夫浄配水課長、杉谷雄二事業推進課長、鍛冶紀夫営業管財課長、
古藤義弘浄配水課専門官、田淵亮事業推進課専門官、中西誠業務部調整官

4. 議 題

(1) 議事

1. 松江市上下水道局防災計画について

(2) 現地視察

1. 千本ダム堤体補強(耐震化)事業について

2. 乃白ポンプ場について

◇委員会の内容（概要）

現地視察 千本ダム堤体補強(耐震化)事業について説明

現地視察 乃白ポンプ場について説明

議事 松江市上下水道局防災計画(素案)について説明

○水谷委員長

どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆様方からご質問・ご意見をいただきたいと思
います。なお、時間の都合もございますので、ご意見・ご質問は簡潔に
お願いしたいというように思います。

それでは、どなたからでも結構でございますので、ございましたら

お願いいたします。いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○宮脇副委員長

被害の状況にもよるのですが、これは自衛隊が出ますよね。激甚指定とか色々なものがあるでしょうけれども、その辺りの兼ね合いが、この素案では市がすべてやることになっていますけれども、少しその辺りを教えていただけないでしょうか。

●川原上下水道局長

宮脇委員さんのご指摘の通りでございます、自衛隊に県を通じて出動要請をさせていただくような事態というものも十分に想定をされるところでございます。

自衛隊については、給水車両等も装備としてお持ちになっておられますので、私どもが想定をいたしておりますのは、ほかの水道事業体から応援に来ていただく給水車両に加えて、そのようなお力添えがいただけるものだと思っております。

ただ、管路の修繕とか、そういうお話になりますと、やはり地元の施工事業者さんが主体になってまいります。どちらかといえば給水車両を補っていただくような、近いところで出雲の駐屯地もあれば、米子の駐屯地もあれば、そして日本原など、岡山県側もございますので、そこからかなり早くお越しをいただくことができるだろう。

それから、もう1つは、色々な資機材を、実際に修繕も含めて運んでいくという話になると、自衛隊の方々の車両を使わせていただいての運搬ということも想定できるだろうと。

ただ、自衛隊の出動要請そのもので応援いただくにあたりましては、水道や下水道の施設以外に、松江市全体の防災に基づいての対応になりますので、私どもとしては、あくまでも松江市の防災計画の下部のレベルの上下水道というものの下位計画として作って対応しますので、そういったことになろうかと思っております。

○水谷委員長

ほかにごございますか。

はい、どうぞ。

○宇野委員

今、下部のというか、下りるというイメージは湧くのですが、日水協のほうへの応援を得て他の自治体というか、応援をいただくということですが、その要請というのは松江市長か局長からいくのでしょうか。

それから、もう1つ。関連するのですが、日水協のほうでそのフローというか、システムティックに対応が、心配するというのは、当市だけが被災を受けている場合はイメージが湧くのですが、広域にわたったときに日水協のほうでどのような手配をされるのかがもしご教示いただければと思います。

●川原上下水道局長

玉野井部長さんのほうで補足・修正があればおっしゃっていただきたいと思いますが、私ども、昨年の西日本豪雨の際にも中四国の支部として、そこを統括いただいているのは広島市の水道局になるわけでございます。

そこで、こちらのほうの応援をしてもらいたいということで、私どもに限らず、被害を受けていない水道事業者に対して要請がかかり、そこで出かけていくという流れになっております。

確か広島のほうでは、ここで起きた場合には、例えば先般は岡山・広島辺りが中心だったわけですが、例えば先ほど説明がありました島根県の東部・鳥取県の西部辺りが大地震になったと。

そのときにはどういうところに要請をして、何台出かけていくということの一定の見積もりというものは、既にそれぞれの想定としてお持ちになっておられます。

それをまた日本水道協会が全体として、派遣のためのシミュレーションといいますか、要請先をどこにしていくということの基準というものも既にお持ちになっておられるので、そこで対応していくという格好になるわけでございます。

とりあえず、先ほど説明しましたように、事象進展というか、時間が経てば経つほど必要な水量が増えていきます。

当面の数日間というものは、例えば中四国、九州の一部くらいで対

応じていて、それからの時間経過の中で近畿とか、場合によっては中部とか、そういうところから応援が来る。そこで台数が増えていくというように考えております。

何かを補足をいただけますか。

○玉野井委員

只今、川原局長から説明がありましたが、日本水道協会の組織は現在、7地方支部、46都府県支部、5北海道地区協議会となっています。各々の地方支部には支部長を置いており、中四国の支部長は広島市になります。地方支部には都府県支部を置き、島根県では松江市さんが県支部長になります。

災害が発生した場合、都府県支部長が県下の被害について情報収集をしていただき、その状況を地方支部長に報告していただきます。地方支部長は都府県支部長からの報告を受け、地方支部内の水道事業体と協力して支援活動を行うこととなりますが、地方支部内で支援活動が終わるようであれば他の地方支部からの支援活動は受けないこととなります。

広域的な災害が発生した場合、例えば東日本大震災の時ですが、この時は特に岩手県、宮城県、福島県で被害が甚大になりましたので、東北地方支部を除く6地方支部から支援活動をお願いしました。

この度の台風19号においても、水道施設に甚大な被害が出ました。14都県で103の水道事業体で断水が発生し、その最大断水戸数は16万6000件に達しました。日本水道協会といたしましても救援対策本部を設置し、被災した水道事業体の支援を行ったところでございます。

●川原上下水道局長

先ほどお答えそびれましたが、この防災計画の素案の中に、今、玉野井部長さんのほうから補足もいただいたわけでございますけれども、日本水道協会なり中四国支部で、一定の想定の下に、こういう場合はこういう対応をしていくというものがあります。

そこで動かせる台数というものが、ある程度概数的には出てくるので、そういうものをきちんと盛り込んでいくということが必要だろう

しかし、松江市は大橋川を境にして北と南に分かれておりまして、今、新大橋も耐震をされて、きちんと通れるというように想定されておりますが、どのような災害がこれから起きてくるのかということは、私たちは誰もなかなか想像がつかないわけでございます。

将来的にそういうリスクがないように、北のほうにも乃白のようなものができると良いなど、これは私が北のほうに住まいしております希望でございますけれども。

今日、乃白の施設を見させていただいて、本当に素晴らしいものをつくられたなということで、今日はこの計画を説明いただきました。

それに合わせて私たちも災害時には十分な対応ができるような準備が着々と進んでいるという現実を見させていただきました。ありがとうございました。

●川原上下水道局長

乃白のポンプ場でもご説明を申し上げましたけれども、あれは千本ダム・忌部浄水場という私どもの自己水源・自己貯水池があって、その直下でございます。

そこでどンドン水ができれば、ほかからお見えいただいた給水車両で、だんだん道路というのは平成 24 年にできていて、耐震性はもちろんございますから、その高速道路を使って北側へ車両が行ける。

今の新大橋の架け替えということもございますが、松江の場合、橋が落ちた場合には車で動けないという話になるので、そこは 1 つの想定としてそういうことを考えていると。

伊藤さんがお住いの、今の大野・秋鹿方面というものは、これは宍道湖の湖底を使って尾原受水で送水管がきている。これも平成 23 年に尾原受水が始まり、その後、速やかに整備されたと。

したがって、耐震性については、だんだん道路と基本的には変わらないだろうというように思っております。

北側の配水池というものも各所でございますので、そこは今日ご説明の通りで、地震時に自動遮断をして、貯水量が半分ぐらいい残っているから、その水を使って対応していくということもできます。

また、いわゆる配水池の入り口を少し造成させていただいて、住民

のみなさんが車で水を受け取りに来ていただけるようなことも、これも逐次、橋北部も含めて計画してまいりたいと思っております。

ただ、非常に大きな災害の場合はそれが起きるので、そうすると今の松江の高速道路が寸断されないというのも1つの想定になるわけですが、それができる状態の中では、現時点ではやはり乃白ポンプ場というものがその拠点になるだろうと思っております。

色々な施策や対応というものを総合的にやるので、決して北側が不利ではないかということではないだろうと。

ちなみに境港・出雲道路という高速道路の整備というものを、まだ計画段階ではありますけれども、国や県に対して、特に国に対して強くお願いを申し上げているわけでございます。

やはり中期・長期的にはそういったことが可能になっていくので、それも含めた話の中で、北側での施設の整備というものも、そこで可能性というものは大きくなるのではないかとと思っております。

○水谷委員長

ほかにございますか。

はい、どうぞ。

○安部委員

道の駅の安部でございます。

今、災害ということになりますと、道路の寸断とか、色々なことが発生すると思います。

道の駅でも結構防災の話が出たりするのですけれども、ここにも書いてございますように、住民とか色々な方に正しい情報の提供というところが一番やはり皆様が求められることです。

どこに行ったら給配水の水がいただけるのか、今どこまで復旧が進んでいるのかというようなところが、一番みなさんが求められている内容ではないかと思えます。

正しい情報の提供というところが、色々なものが寸断されている中で、どのような形でこれを進めていこうと考えていらっしゃるのか、もし何かお考えでもあればお聞かせ願えればと思います。

●杉谷事業推進課長

失礼します。先ほどの正しい情報を提供について、どのような手段が想定できるかというお話でございました。

実際、東日本大震災などを経験された方のお話のなども聞くと、ラジオとか、地域に密着した FM であったりとか、そういうところで非常に情報を得て、それが支えになったというようなお話などもよく聞いております。

そういった部分からすると、この松江にも FM とかラジオ局もございますし、そういったところからの情報提供も1つは考えられるのかなというようにも思います。

それから、あとは通信手段が災害によって、特に今、スマートフォンなどが普及はしていますけれども、それが災害によって使えなくなるということも想定されますので、それに依存した情報提供では混乱をきたすのではないかなというように思います。

そういったところも含めながら、どういう情報の伝達の在り方というものを、これから掘り下げて作り上げてまいりますので、その中でも検討してまいりたいというように思っております。

●古藤工務部長

我々が今お話したのは、上下水道の防災計画ということでお話しておりますけれども、まず前段にこういった大きな災害があったときには、市の災害対策本部というものが立ち上がります。

そういった中では、市のほうは各種媒体、屋外スピーカーであったり、伝達手段、たくさんのを、そのアイテムを全部使って住民のみなさんに間違いのない正しい情報を伝えるということで、市の本部のほうも今、精力的にそういったことを考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

●林業務部次長

私は市民部にいたのですがけれども、市の防災計画上は、情報を正しく発信するのが政策部、要は秘書広報課が中心になってやることになっています。

市民の皆様からの相談とか困りごととか苦情とか、そういうのは市民部の市民生活相談課を中心に受けるというようになっております。

今、古藤部長が申しましたように、市全体でそこを少し考えさせていただければというように思っております。

○水谷委員長

ほかにございますか。

はい、どうぞ。

○磯部副委員長

これからお話しするのはもう 1 つ先の話かなと思っているのですが、災害があったりしたときに、給水車の近くに長い行列ができて、長時間待っていらっしゃるなというのをニュースなどで見ます。

そうすると、何とかもう少し早くと常に思っていたのですが、今、6 リットルの給水袋を入れるのに 5、6 秒だったと思うのですが、それくらいで入るくらいの速度であれがいっぱいになるのかなと思いました。

あと、今度は持ってみたら意外に重いので、大きなポリ容器とかを持ってそこに集まっていらっしゃる人などがいるのを見たのですが、松江市もかなり高齢化してきていて、そういう人たちに対してもう少し、ここの職員の人はとても手が回らないだろうとは思いますが、例えば大学生などの若い人と連携ができるような体制がここに明記できるような状況になって、そして、その人たちが運んでくれるというか、乳幼児を抱えたような若い人だって多分持って行けないだろうし。

日にちを見たら、日にちがかかるほど水がたくさん必要になってきているというような状況を見ていると、とてもその辺りの不安があるので、ぜひそういったところとの連携も 1 つは考えていただけたら良いかなというように、次の話なのですが、今日の現場を見せていただいて良かったと思う反面、少しその辺りが気になったことです。よろしくお願いします。

●西村業務部長

非常に大切なことではないかと思っております。松江市全体として、こういう災害時に、とても行政だけでは手が回らないということで、地域の自治会単位を中心として、要するに何かあったときに見守

りをしたり、そういうお手伝いをできるような要配慮者の支援組織というものを各自治会単位でつくっていただくようお願いをしております。

もう数百できているのですけれども、まだ全体的にいうと、カバー率的には20%、30%ぐらいしかないのですけれども、そのようなことで、そういう組織にもお願いをさせていただく。

今、おっしゃいました大学の方々も一緒になってやっていただくというのは非常に良いことではないかと思ったのですけれども、まずはその地域のつながりを少しお手伝いいただくような形でお願いができないかということがございまして、本当に水のことでもそうですけれども、色々なことにもつながってまいりますので、防災に対応する地域の力を少しでも強くする、今の地域の力を何とか食い止めるという形での市全体としての取り組みがございまして。

そのようなことを今回、水のことについても、併せて防災訓練等でそういうものも含めて訓練等に活かしたらなと思っているところです。

○水谷委員長

ほかにございますか。

はい、どうぞ。

○伊原委員

失礼します。私、この推進委員会で2年目になるのですけれども、去年は通水100周年ということで式典にも出席させていただいて、水のありがたみというものを勉強させていただきました。

今回は防災に関してということと、忌部ダムのアンカー方式を見学させていただいて、思ったことは、すごくみなさんに守られているなという思いがとてもしました。本当に水は大事ですし、どこにどういふ災害が起こるか分からない。

今までは出雲大社があって、大社さんが守ってくれたという考えでいたのですけれども、今年になってから台風が来て、それが長野とか千葉とか、想定外のところが災害にあって、日本中どこにどういふことが起こるか分からないと、みなさんひしひしと感じていると思うの

です。

今回、乃白のポンプ場のところも見させていただいて、私の会社は平成町のほうにありまして、いつもこの前を通っているのですけれども、まさかこのようになっているとは私も思わなくて、素晴らしいものができているなと思いました。

防災訓練に関しても、やはり平成町のほうにも企業が何社かありますので、若い方もたくさんいらっしゃいます。

でも、防災訓練というのがどこまでできているのかな。みなさんが多分、こんな近くにこういう忌部のポンプ場があるということ、私もよく分からなかったし、分からない人もたくさんいらっしゃると思うのです。

何かの機会があったときに、やはり団地全体でこういう会議ができたら良いなということは少し思いました。

それから、今回は防災だけではなくて、私もこの推進委員会に入らせていただいて、夏に神奈川に住んでいる孫が来ましたので、親子の勉強会というものに1日参加させていただいて、朝の8時半から4時までびっしり、孫と娘と一緒に見学しました。

帰ってきて、孫にどうだったと聞きましたら、やはり小学校4年のときに、神奈川のほうでもやはりこういう見学会があったらしくて、「おばあちゃん、水の話は小学4年のときに勉強したよ」と言っていました。

水はすごく大切だということをやはり分かっていたみたいで、やはりそういう小さいときから水の大切さとか防災のこととかは、頭が柔軟ですし、そういう勉強会があっても良いのかなという思いは、今回の防災以外ですけれども感じました。

本当にこれに携わらせてもらって、私も色々な勉強させていただいて、とても良かったなと思っております。以上でございます。

●川原上下水道局長

ただいま伊原委員さんのほうからおっしゃっていただきまして、大変ありがとうございます。私どももご期待に応えて対応してまいりたいと思っております。

お話の中にありました伊原さんの会社もおありになりますクレアヒルでございますが、こちらのほうには実は松江市の交通局、それから松江市のガス局、それから日本通運さん、さらには山陰クボタ水道用材さんというところもいらっしゃいまして、少し固有名詞を言ってしまうけれども、それからさらに山京さんもおありになるという、つまり非常災害時の色々な対応が可能な業種の方々が、ある面ではお集まりになっているわけです。

そこで、あの工業団地の中での業務継続ということのお考えのための検討というものも、以前からガス局や交通局、私も交通局にいましたので、参加させていただいて、色々なことを検討していらっしゃいます。

それと同時に、団地にとどまらずに、松江市全体が大きな災害を受けたときに、あの団地の先ほど申し上げました色々な機能というものを大変有効に活用いただく中で、どのような全市的な対応ができるのか、そこでどのような役割が果たせるのかということについても、今、確かご検討を進めていただいているというように承知しておりますので、そういう意味で誠にありがたく思っております。

また、今、お話がございました乃白ポンプ場というものもほど近いところにあるわけでございますし、大庭の配水池も近いものですから、少し私どものほうもそれを意識して色々なことを考えていけば良いのかなと思っております。

それから、先ほど磯部先生からお話ございましたが、ソフト面のことになるわけでございますけれども、同時に以前からお話をいたしておりますように、いわゆる災害の拠点施設への管路の耐震化を進めていくという課題もあるわけでございます。

ソフト・ハードを含めまして、この防災計画の中にはハードの整備というものは入っていないのですけれども、その機能がきちんと確保できれば、また余力というものが生まれてくるわけでございます。

そういうことの中では、例えば給水のポイントというものも、プールみたいなものを持って行って、そこへ入れていくということもできるわけですから、別に避難所ではなくても、応急的にはそういうこと

もできる。ですから、そういうことも含めて考えていきたいと思っ
ているところでございます。

○水谷委員長

ほかにございますか。

●西村業務部長

それから、先ほど見学会の話をしていただきました。実はこの部屋
の周りを見ていただきますと、非常に分かりやすい書き方がしてある
と思うのですが、実は毎年、こちらのほうに小学4年生が十数校です
けれども、ここに来ていただいて学んでいただくという形をずっとや
っております。

そういう形でやっていますし、先ほども言いましたように夏休みに
親子の見学会をして、それに来ていただいて見ていただく。

ただし、少し残念なのは、少しずつ見学していただく方が減ってき
ておりまして、私どももしっかりPRをしていると思うのですけれど
も、非常に大切なだけけれども見学する方が減ってきていて、今、ど
ういうやり方が良いのかということを少し考えて、少なければやめざ
るを得ない。

ただし、大切なことだからやり方がほかにならないだろうかというよ
うなことも考えておりまして、ぜひやり方も含めて、皆様方からのご意
見も頂戴できたらと思っっているところでございます。

○水谷委員長

それでは、そろそろ時間になってきましたので、今までいただいた
意見を今後の計画のほうにぜひ反映させていただきたいというよう
に思います。

なお、この委員会が終了したあとでも、何か追加の質問、あるいは
「こういう意見がありましたよね」ということがございましたら、事
務局のほうまで連絡をいただければと思います。

それでは、続きまして、5番の次回の委員会の日程に移りたいと思
います。次回の委員会は令和元年度第3回の推進委員会ですけれど
も、来年の3月14日、土曜日の開催を予定しておりますので、カレ
ンダーのほうに記入をお願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして、令和元年度第2回松江市上下水道事業経営計画推進委員会を終了したいと思います。

それでは、マイクを事務局のほうへ返したいと思います。

○事務局

それでは、みなさん長時間ありがとうございました。